KNOWLEDGE インフレータブルサップの取扱について

―― インフレータブルSUPの特性 ～ SUPで漕ぐという事は ――

インフレータブルSUPの特性

インフレータブル・タイプのSUPは、ポンプで空気を入れて膨らませて使用するボードです。小さくコンパクトに畳んで収納ができ、持ち運びがし易いなど大きな利便性がある反面、簡単に言えば、風船や浮き輪と同じで、岩礁や珊瑚、バラ線やコンクリートの角など鋭利なモノに触れたり刺さったりすると破れたり穴が開き破損し易いという弱点もあります。また、夏場など炎天下に放置すると、生地やパッド部分、フィンやバルブの取り付け位置などの剥離、本体の中の素材が破損したり、場合によっては膨張による破裂の恐れもあります。これは、夏場に自転車や車のタイヤが破裂するのと同じ現象です。インフレータブル・タイプのSUPは構造上により製品の強度に限界がありますので取り扱いには十分な注意が必要です。ハードな状況下での使用、上級者の求めるクォリティを100%満たす製品ではありません。ボード自体の強度やハードな自然環境下での使用に耐えるボードを求める方は、成型タイプのボードをオススメします。弊社の製品の中で、例えば、ADVENTUREやEXPEDITIONなど大きめのボードは、お子さんを乗せたり、二人乗りをする事は可能ですが、これはあくまで使用者（購入されたお客様）の自己責任においてです。基本的には全て一人乗りになります。また、いろいろな自然環境下（風や潮の流れなど）、水面のコンディションにより、漕ぎ易い日、漕ぐのが大変な日があります。これは全て自身のレベル、スキルによって違いが出ます。このボードに乗れば誰でも安全に快適に漕げる・・・というものではありません。最終的にどのボードをチョイスし、どのように遊び使用するのかは購入者が判断し、すべて自己責任になります。

SUPで漕ぐという事は

あらゆるフィールドで、SUPを使って漕ぐという事は、すべて自己責任になります。他のアクションスポーツと同じです。さらに、SUPを漕ぐという事は、漁業権や港、航路などとも関係し、法的な決まりやその場所のローカルルールなどを守らなければいけません。また、安全対策(ライフジャケットの着用や身体とボードを繋ぐリーシュの使用など)にも自己管理が必要となります。SOUYU STICK.は基本一人乗りのボードです。二人以上で乗る事やお子さんを乗せる事も全て自己責任になります。技術だけでなく、知識を増やし、経験を積み、情報収集を欠かさず、安全に楽しくSUPを漕ぎましょう。

空気の入れかた

ボードにあるバルブ(空気挿入口)のフタを開け(画像1)、バルブ内のコック(画像2)を押し回し(押すごとに開閉が切りかわる)、コックが上がっている状態にしてから(これを忘れるとホースを抜いたときに入れた空気が抜けてしまいます)ポンプのホース先端をバルブにねじ込んで(画像3)接続します。最大空気圧はボードによって異なりますが、10 ～ 15PSI(各ボードの挿入口に記載されているので要確認)。数字が高いほど空気圧が高く、それだけボードが硬化しますが10PSI以上になるとそれほど硬化に差は出ません。真夏の炎天下では空気の膨張によるボードの破裂や剥離が起こりやすくなりますので10PSI程度で十分使用可能です。通常より少なめでも空気の膨張で気圧が高くなりますので、炎天下での長時間の放置はしないでください。ゲレンデ(使用している現場)では、水をかける、水につけておく、日陰に置くなどをしましょう。ポンプに付いているゲージを見ながら数値を確認し空気を入れますが、このゲージはあくまで目安です。まず、ダブルアクションに設定し(画像4・5/レバー、ボタン、ネジタイプが有り)、ハンドルの押し引きどちらでも空気を注入できる状態でポンピングします。ダブルアクションでの押し引きがきつくなってきたらシングルアクション（ハンドルを押す時のみで注入するモード）に変更し、適正数値までポンピングします。空気を抜くときは、空気挿入バルブのフタを開け、コックを押し回せばロックし抜ける状態になります。ボードのノーズ側から空気を抜きながら畳んでいきましょう。大きいボードは空気が抜けにくく、畳みにくい事がありますが、ホースを排気口側に付け替えれば(画像6)ポンピングする事で空気を抜く事ができ、ボードを畳み易くなります。

あああああああああ：あああああああああ